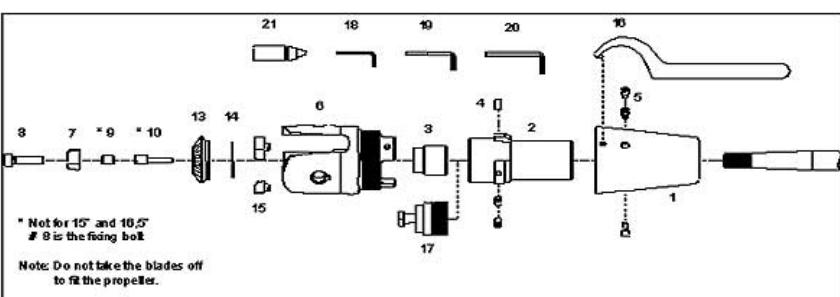
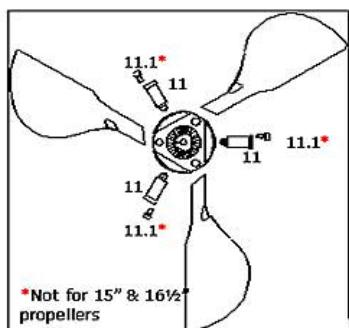




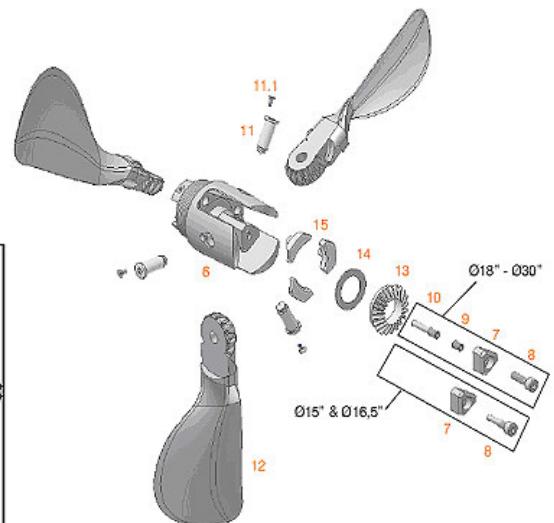
Gori フォールディングプロペラ 取付説明書 3ブレード・シャフトドライブ用

プロペラを取り扱う前に必ずお読み下さい

この度はゴリ・3ブレードフォールディングプロペラ(シャフトドライブ用)をお買い上げ頂き誠にありがとうございました。



Gori 【シャフトドライブ用】3翼 分解図



番号	部品名	数
1	ジャケット	1
2	コーンパーツ	1
3	ナット	1
4	ナットロック用アレンスクリュー	3
5	ジャケット用ロックボルト	3
6	ブレードハウジング	1
7	ジンク・アノード	1
8	ジンク・アノード取付ボルト	1
9	スレッドピン	1
10	ピン取付ボルト	1

11	ピン	3
12	プロペラブレード	3
13	ギアホイール	1
14	スペーサー	1
15	フレキシブルストップ	3
16	Cスパナ	1
17	プーラー	1
18	アレンキー4mm	1
19	アレンキー5mm	1
20	アレンキー6mm	1
21	ロックタイト	1

■プロペラの取付け

★取付けはコーンパーツ(2)及びナット(3)が、前もってプロペラシャフトに合わせてテーパー及びネジ切り加工がされていることが前提です。

- まず(1)～(5)を分解します。
- Cスパナ(16)を使いジャケットを回しブレードハウジングから取り外します。ジャケットを回す方向は、船尾から見て時計回りです。(※ブレードハウジング及びジャケットのネジは普通ネジです。)
- ご注意:ブレードハウジング及びブレードは既に組立てられ、ボルトはロックタイトを用いてロックされていますので(6,7,8,9,10,11,12,13,14,15)は分解する必要はありません。
- ジャケット(1)とコーンパーツ(2)をプロペラシャフトへ差し入れます。コーンパーツがプロペラシャフトのテーパー部分とフィットしているか、そしてキーが干渉していないかをチェックして下さい。必要に応じキーを調整します。
- コーンパーツをはめ込んだら、次にナット(3)を強力に締め込み取付けます。
- アレンスクリュー(4)をジャケットの穴を通して差しめる位置に、ジャケットを回し調整します。ナット(4)のロックのため、アレンキー4mm(18)を使いロックタイト(21)を塗ったアレンスクリューをねじ込みます。
- ブレードを含むブレードハウジング(6～15)を、その3本のフォーク状の足を噛み合わせるようにコーンパーツ(2)へ差し込みます。
- ジャケット(1)をそのネジ位置までコーンパーツへ慎重に差し込み、ブレードハウジング(6)と互いに向かい合わせます。Cスパナでジャケット(1)の三つの穴とコーンパーツの三つのネジ穴が一致するまで、ジャケットを船尾から見て反時計回しでブレードハウジングへねじ込みます。(※ブレードハウジング及びジャケットのネジは普通ネジです。)
- ロックタイト(21)を塗ったジャケット用ロックボルト(5)を、アレンキー5mmにて強くねじ込み取付けます。
- プロペラブレード(12)がスムーズに開閉することを確認して下さい。
- ※プロペラ保護のために、プロペラシャフトへ防蝕亜鉛を必ず付けて下さい。

■プロペラの取り外し

- まずアレンキー5mmでジャケット用ロックボルト(5)を緩め取り外します。
- Cスパナ(16)でジャケット(1)を船尾から見て時計回りに回しブレードハウジング(6)から外し、プロペラシャフト側に押します。
- コーンパーツ(2)からブレードハウジング及びブレード(6~15)を取り外します。アレンスクリューを緩め取り外します。
- ナット(3)を緩め取り外します。
- プーラー(17)をコーンパーツ(2)にねじ込みます。
- コーンパーツがプロペラシャフトから抜け離れるまでプーラーのボルトを締め込みます。

■ブレードハウジングからのブレード及びギアホイールの取り外し

※この取り外しは、クリーニングと点検の時だけ行って下さい。

- アレンキー5mmにてジンクアノード(7)とジンクアノード取付けボルト(8)を取り外します。
- アレンキー6mmにてスレッドピン(9)を取り外します。
- アレンキー5mmにてロックボルト(10)取り外します。
- アレンキー6mmにてブレードピンとブレードを取り外します。
- ギアホイール(13)を取り外します。
- スペーサー(14)を取り外します。
- プライヤー等でフレキシブルストップ(15)を取り外します。

■再組み立て時の注意

※各パーツの再組み立ての時重要なことは；

ジンクアノード取付けボルト(8)、スレッドピン(9)、ピン取付けボルト(10)、ピン(11)に必ずロックタイトを塗ってねじ込むことです。

また、ブレードハウジング(6)、ピン(11)、プロペラブレード(12)にはナンバーリングされ、ブレードハウジングとピンはラインがマークされ、再組み立てのとき、全てお互いが合うよう工夫されています。

■その他の注意事項

- もしジンクアノード(7)が侵蝕されその50%以上が減った場合は、新しいジンクアノードに交換して下さい。このジンクアノードは、保護を補助するだけのものです。プロペラシャフトにはいつも必ず防蝕亜鉛を取付けることが必要です。
- もしギアホイール(13)が損傷、摩耗した場合、新しいギアホイールに交換して下さい。
- もしフレキシブルストップ(15)が損傷、摩耗した場合、必ず新しいフレキシブルストップに交換して下さい。

※警告

- 船が水に入っていない時、エンジンをスタートさせないで下さい。
- プロペラには鋭利な部分があります。指等を切らないよう丈夫な手袋をする等、取扱いには十分注意して下さい。
- 指などが挟まることがありますので、プロペラの羽根が突然開いたり、閉じたりしないようにして作業して下さい。
- 船が水に入るまでプロペラとプロペラシャフトを回さないで下さい。
- 船のそばで水泳やダイビングをする場合必ずエンジンを止めて下さい。
- プロペラの羽根はナイフのようなものです。回っている時は大変危険です。十分な注意をして下さい。
- プロペラが回っている時に、からんだ漁網やロープ等を取り除く作業は大変危険です。絶対しないで下さい。
- 出航前に、前進及び後進の両方ともプロペラが正しく機能するかを確認して下さい。
- もしプロペラから異常音や異常振動があった場合、ただちにエンジンを止め原因を取り除いて下さい。

■3ブレード・フォールディングプロペラの作動説明

ゴリ・3ブレード・フォールディングプロペラは「オーバードライブ」状態の時、より低いエンジン回転数で同じスピードが得られるようにデザインされています。

- 「オーバードライブ」状態では、オーバーロードとなりますので、エンジンの回転を最大限まで上げないで下さい。
 - オーバードライブ機能は、廻ぎの状態での機走と機帆走の時のみご使用下さい。
- ※ゴリは、エンジンのオーバーロードに起因して生じた損傷の責任は負いません。エンジンの負荷について疑問がある場合は、権威あるエンジンサービス機関とゴリへ連絡して下さい。

□セーリング時

セーリング時はプロペラのブレードは常に閉じていますが、プロペラが回転しないようにエンジンのシフトレバーを後進位置に入れておくことが重要です。プロペラシャフトをロックし、プロペラが不要に開くのを防ぐためです。

□前進の場合

後進にシフトされるまでプロペラは常に前進状態で開いています。

「オーバードライブ」から通常の前進状態へシフトする場合は、シフトレバーを中立にし船のスピードが1ノット位に落ちてプロペラが閉じてから、再度シフトレバーを前進に入れて下さい。

ハーバー内での取り回しの際、プロペラが「オーバードライブ」状態になっている場合があります。ハーバーを出る前にプロペラが望むポジションになっているかどうか、エンジンの回転数を見ながらいつも確認して下さい。

□後進の場合

後進状態のプロペラの羽根は、前進状態の羽根の位置に大して180度振れた位置になるため、後進でも同じエッジと形状の羽根で水をかき、非常に効率的です。

しばらく船をつかっていなかった時、ブレードのギア部とギアホイールの汚れを落とすため、シフトを前進・後進に数回慎重に入れ、ギア部分をクリーニングして下さい。

□前進オーバードライブ時

前進「オーバードライブ」状態にするためには、船を一度後進させ、プロペラの羽根を後進状態に保ったまま、シフトを前進に入れて下さい。

船が前進しているときは、前進からオーバードライブへの急激なシフトレバー操作はしないで下さい。

※出港前にプロペラが前進・後進の両方とも働くかどうか確認して下さい。